令和6年度　八幡浜市立江戸岡小学校評価報告書(前期)　R6年8月集計

【　評　価　者　】　保護者アンケート 児童93名分　教職員自己評価　10名　児童アンケート112名回答（全校児童115名）

【アンケート評価】　4：よくあてはまる　3：だいたいあてはまる　2：あまりあてはまらない　1：まったくあてはまらない　無：わからない、無回答

【　評　価　基　準　】　A：十分に達成されている(肯定率90％以上かつアンケート評価4評価35％以上を目安)　B：相当程度達成されている（肯定率75％以上）

C：やや不十分である（肯定率60％以上）　D：不十分である（肯定率60％未満）　※　肯定率：アンケート4・3を選んだ割合

項目	小項目	評価指標	評価		評価資料	アンケート結果 4	3	2	1	無	肯定率(%)	評価4(%)	学校による考察（○）・改善方策（◇）
Ⅰ 教育目標・児童	教育目標の具現化	学校の教育目標『「よく学び　よく遊べ」豊かな知性・健やかな体・利他の心を育てる』を理解し、その実現に努めている。	前	A	教職員自己評価1	5	5	0	0	0	100	50	○全ての教職員が、教育目標の具現化を意識して教育活動を推進することができており、高い評価につながっている。 ◇今後も、教育目標や目指す児童像を共通認識し、全ての教育活動を通して児童の健全育成に努める。
			後										
	学校生活	児童：学校は楽しい。 保護者：子どもは学校へ行くのを毎日楽しみにしている。	前	A	児童アンケート1	67	40	5	0		96	60	○多くの児童が充実した学校生活を送っており、児童、保護者のアンケート結果ともに、昨年度よりも良い評価となっている。 ◇一部に学校生活に満足できていない児童の様子が見られるため、個々の課題や悩みの解決に努める。
				B	保護者アンケート1	48	35	9	1	1	89	52	
			後										
Ⅱ 努力事項	1　学習指導	基礎・基本の定着を図り、分かる授業・楽しい授業づくりに努めている。 保護者：授業がよく分かると聞く 児童：授業がよく分かる、楽しい	前	A	教職員自己評価2	5	5	0	0	0	100	50	○児童の学習の成果や課題を分析し、児童の実態に応じた授業改善に努めることができている。 ◇児童の学習への取組や学習内容の定着度を把握し、つまづきのある児童への支援や個別指導を充実させる。
				B	保護者アンケート2	26	51	13	3	1	83	28	
				A	児童アンケート2	62	45	5	0		96	55	
			後										
		個に応じた指導を行い、児童一人一人を大切にした授業を行っている。	前	A	教職員自己評価3	5	5	0	0	0	100	50	○少人数指導の充実やICT機器の効果的な活用を図ることで、児童一人一人に目を向けた指導に努めることができている。 ◇教職員が一人一人の児童に関わる時間を十分に確保するための授業改善に努める。
			後										
		家庭学習の習慣が身についている。 （低15～30分　中30～60分　高60～90分）	前	B	教職員自己評価16	0	9	1	0	0	90	0	○肯定率は高いが、児童によって個人差がある。保護者の評価からも十分でないと感じている様子がうかがえる。 ◇家庭との連絡や生活学習がんばりカードの活用で児童の様子を把握し、課題の見られる児童への声掛けや支援に努める。
				C	保護者アンケート3	27	43	18	6	0	74	29	
				A	児童アンケート3	59	48	5	0		96	53	
			後										
		主体的・対話的で深い学びの充実に努め、自ら学び自ら考える力の育成に努める。	前	B	教職員自己評価4	1	7	2	0	0	80	10	○自分の考えを適切にまとめる力に課題があり、自分の考えを進んで表現することを苦手としている児童が多い。 ◇ペアやグループでの学習を積極的に取り入れ、一人一人に活躍の場がある主体的で対話的な授業づくりを推進する。
			後										
	2　現職教育	資質・能力の向上を目指したOJT研修の推進と専門的、実践的研修の充実に努める。	前	B	教職員自己評価5	3	6	1	0	0	90	30	○計画的に校内研修を進め、教職員一人一人の資質・能力の向上に努めることができている。 ◇校内研修等で教職員同士が学び合う場を設け、経験や知識を積極的に共有していく。
			後										
	3　道徳教育	道徳科の充実に努め、よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に努める。	前	A	教職員自己評価6	4	6	0	0	0	100	40	○道徳科の授業の充実に努め、他の教育活動の中でも道徳性の育成を重視した活動を実践することができている。 ◇体験的な活動を重視し、道徳性の育成や道徳的実践力の向上をねらいとした取組を進める。
			後										
	4　特別活動	異年齢集団活動を生かした、温かい人間関係や連帯感を養う。	前	B	教職員自己評価7	2	8	0	0	0	100	20	○上学年児童が下学年児童に温かく接する様子が様々な場面で見られ、支持的風土が醸成されている。 ◇支持的風土を生かして異学年集団で構成するなかよし班活動を充実させ、全校体制での取組を積極的に進めていく。
			後										
	5　生徒指導	情報交換を密にし、全教職員の共通理解を図り、いじめ･不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努める。	前	A	教職員自己評価8	7	3	0	0	0	100	70	○職員朝礼、職員会議、校内研修等で児童理解や情報交換の時間を確保し、共通理解を図っての指導を実践することができた。 ◇今後も、全教職員で児童を見守り育てる意識を持ち、情報交換の時間を確保して一体となった指導を継続する。
			後										
		児童はきまりやルールを守ることができる。	前	C	教職員自己評価19	0	7	3	0	0	70	0	○校内・校外を問わず、きまりやルールが守れない事例がいくつかあったため、評価が低くなっていると考えられる。 ◇きまりやルールの確認をしっかりと行うとともに、地域や公的な場所でのマナーについても様々な機会を通して指導していく。
			後										
		児童は気持ちのよいあいさつができる。	前	D	教職員自己評価17	0	5	5	0	0	50	0	○教職員や保護者の評価が低い。児童の評価も含め、あいさつに関して課題を感じている様子がうかがえる。 ◇今年度は、重点目標の中でも、特にあいさつの励行に取り組んでいる。各家庭にも呼びかけて、根気強く指導を継続していく。
				D	保護者アンケート4	20	34	31	8	1	58	22	
				B	児童アンケート4	52	43	15	2		85	46	
			後										
		児童は正しい言葉遣いができる。	前	B	教職員自己評価18	0	8	2	0	0	80	0	○言葉遣いに課題があると感じている保護者が多い。児童や教職員の回答にも、一定数「あてはまらない」の評価が見られる。 ◇場に応じた言葉遣いや相手の気持ちを考えた言葉遣いについての指導を充実させる。地域や家庭とも連携して適切に指導していく。
				D	保護者アンケート5	2	50	34	7	1	56	2	
				B	児童アンケート5	37	62	13	0		88	33	
			後										

Ⅱ努力事項	6 人権・同和教育	いじめや差別のない集団づくりができている。	前	A	教職員自己評価9	4	6	0	0	0	100	40	○現在、いじめは認知していない。児童の人間関係の問題に対しては、全ての教職員で情報を共有して指導や支援に当たっている。 ◇大きな問題は起こっていないが、今後も児童の人間関係に十分な注意を払い、いじめや差別の早期発見・早期解決に努める。
				B	保護者アンケート9	31	48	10	5	0	84	33	
				A	児童アンケート6	61	48	3	0		97	54	
			後										
	7 特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実に努めるとともに、相談体制の充実に努める。	前	A	教職員自己評価10	6	4	0	0	0	100	60	○校内支援委員会を組織して児童理解に努め、学校生活支援員や関係諸機関と連携して児童の支援に当たっている。 ◇特別支援教育コーディネーターを窓口として、児童や保護者の相談や要望に適切に対応していく。
			後										
	8 健康、安全教育	子どもは早くに（決められた時間に）寝る習慣が身に付いている。	前	C	保護者アンケート7	36	32	21	4	1	73	39	○多くの家庭が就寝時刻を決め実践できている様子だが、早く寝る習慣が十分に身についていない児童の割合も高い。 ◇学習・生活がんばり表等を活用して、児童一人一人の実態を把握し、家庭と連携した指導に努める。
			後										
		子どもはネット依存にならないよう、ルールを守ってゲームやインターネットを使用している。	前	C	保護者アンケート8	21	36	27	7	3	63	23	○家庭で決めたルールを守って正しく使用している児童がいる反面、使用時間が長い児童の割合も高い。 ◇学習・生活がんばり表等を活用して、児童一人一人の実態を把握し、家庭と連携した指導に努める。
			後										
	9 保・幼・中、家庭・地域社会との連携	ブロックやPTA、地区公民館、「おやじの会」等との連携を図り、開かれた学校づくりに努める。	前	A	教職員自己評価12	5	5	0	0	0	100	50	○各関係団体との協力体制が構築されており、連携を図りながら、効果的で充実した取組を行うことができている。 ◇連携の在り方について、学校再編等に対応するための準備を各関係団体と協力して進めておく。
			後										
		学校は子どものことについて気軽に相談できる。	前	B	保護者アンケート13	42	40	10	2	0	87	45	○各教職員が保護者からの連絡相談に真摯に対応するよう努めており、昨年度よりも肯定率が向上している。 ◇相談のしにくさを感じている保護者もいるため、対話の機会が十分に確保できるよう努める。
			後										
		学校は手段や機会を捉え、学校の様子を知らせている。	前	A	保護者アンケート10	59	33	2	0	0	98	63	○学校・学級からの便り、HP等、外部向けの情報発信を効果的に行うことで、高い肯定率が維持できている。 ◇学校と保護者・地域をつなぐ手段の一つとして、今後も発信方法を工夫して充実を図る。
			後										
	10 人的管理	風通しのよい人間関係の構築と健康管理の推進に努め、切磋琢磨できるめりはりのある職場づくりに努める。	前	A	教職員自己評価13	5	5	0	0	0	100	50	○教職員同士の協力体制が構築されており、支持的風土の中で教育活動を推進することができている。 ◇管理職が中心となって教職員の健康状態や長時間勤務に気を配るとともに、積極的な業務改善に努める。
			後										
	11 物的管理	豊かな心を育む、潤いのある教育環境づくりに努める。 保護者：学校の施設・設備はよく整備されている。	前	A	教職員自己評価14	5	5	0	0	0	100	50	○環境整備に努めているが、予算の制限もあり対応が行き届いていない点もある。 ◇市教育委員会や関係団体と連携し、優先順位を付けて計画的に整備や修繕を行っていく。
				B	保護者アンケート12	47	36	7	3	1	89	51	
			後										
		子どもの安全確保や事故防止に努力している。	前	A	教職員自己評価11	8	2	0	0	0	100	80	○防災・危機管理マニュアル等の見直しや定期的な訓練、安全点検を実施し、安心・安全な学校作りに努めている。 ◇日常に潜む危険を見逃すことのないよう、地域や保護者の協力を得て、様々な視点で安全確保に努める。
				B	保護者アンケート11	43	40	6	4	1	89	46	
			後										
	12 事務管理	適正かつ効率的な事務処理・文書管理に努め、情報等の適切な処理・管理に努める。	前	A	教職員自己評価15	4	6	0	0	0	100	40	○事務処理や文書管理に関する課題に対して、教職員間で話し合いながら改善することができた。 ◇適切なチェック体制を維持し、常に複数人で確認し合いながら、漏れのない文書処理・情報処理に努める。
			後										